

みずほ銀行と富士通、 請求支払業務電子化・売掛金消込自動化サービス提供に向けた実証実験を開始

～企業の経理業務を大幅に効率化する FinTech の取り組み～

株式会社みずほ銀行（頭取：林 信秀、以下「みずほ銀行」）と富士通株式会社（代表取締役社長：田中 達也、以下「富士通」）は、本年 7 月 29 日に締結した「請求支払業務電子化・売掛金消込自動化サービス検討に関する基本協定」に基づき、電子請求（EIPP）（注 1）と金融 EDI（注 2）を活用した請求支払業務電子化・売掛金消込自動化サービスの提供を展望した実証実験を開始します。

【 背景 】

昨今、金融と IT の融合を意味する「FinTech」の動きが国内外にて加速しています。中でも、決済電文（振込データ）に商取引に関わる情報を付帯して交換・共有する「金融 EDI」の活用は、取引の自動化・効率化などのさまざまな効果が期待されています。そのような中、金融界・産業界にて検討が進められている「企業間送金の XML 電文への移行」（注 3）との連携を視野に入れ、下図のようなサービス提供の実現に向けたパイロットシステムの構築と、効果を検証する取り組みを開始します。

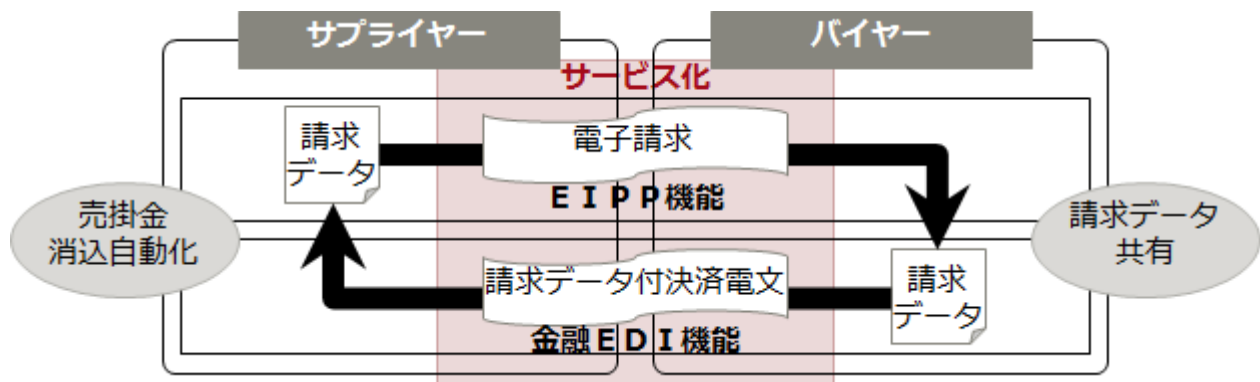


図 EIPP・金融 EDI 活用のイメージ

【 本件概要 】

1. 目的
商取引の請求や支払業務に EIPP・金融 EDI を導入することで、請求から支払・入金までの一連の取引を全て電子化し、企業における売掛金消込自動化の飛躍的な向上を目的とします。
2. 期間
パイロットシステム構築 : 2016 年 7 月～2016 年 10 月（予定）
効果検証 : 2016 年 11 月～2017 年 3 月（予定）
※富士通および富士通グループ各社間の取引で実証を予定

3. 内容

本実証実験では、以下の項目への有効性の検証と事業化の可能性を検討します。

- ・ 業務最適化、コスト削減
- ・ 内部統制高度化、決算早期化

【今後の展開】

- ・ ICT 技術などを活用し、利便性の高いサービスや新たなビジネスの創出に努め、今回の実証実験を通じて、企業の経理業務の効率化につながる先進的な決済サービスの開発に取り組んでいきます。
- ・ 金融界・産業界にて検討が進められている「企業間送金の XML 電文への移行」に対応するサービスの提供を目指していきます。
- ・ 企業の間接部門生産性向上、債権管理業務の BPO 化も視野に入れた共通環境の構築・検証を行っていきます。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

【注釈】

(注 1) EIPP : Electronic Invoice Presentment and Payment の略称。
電子請求書発行・決済のこと。

(注 2) EDI : Electronic Data Interchange の略称。
商取引に関する情報を標準的な形式に統一し、企業間で電子的に交換する仕組み。

(注 3) XML 電文への移行 :
2015 年 12 月、金融庁・金融審議会より、企業間の国内送金指図で使用する電文方式について、2020 年までに、現「固定長電文」を廃止し、情報量や情報の互換性などに優れた「XML 電文」に移行することが提言されております。
詳細については、金融審議会「決済業務等の高度化に関するワーキング・グループ報告」をご参照下さい。
(http://www.fsa.go.jp/singi/singi_kinyu/tosin/20151222-2.html)

以 上